

様式第16号（4）【添付書類】

賃借権の設定等を受ける者の農
（ 個 人 ）

同一の公告において、同一の受け手が複数の促進計画を作成した場合、
2件目からは添付を省略する。(A欄の設定を受ける面積は促進計画の
合計面積を記載する。)

農業経営に必要な農作業に常時従事する日数
(おおむね150日以上)

(記載例)

整理番号	(機構で記載)	氏名	(受け手氏名) 茨城 太郎		年齢	50歳	農作業従事日数		250日					
賃借権の設定等を受ける土地の面積 (㎡) 促進計画の面積 (A)	賃借権の設定等を受ける者が耕作又は養畜の事業に供している農用地の面積 (㎡) (B)	賃借権の設定等を受ける者の主たる経営作目 (C)	賃借権の設定等を受ける者の世帯員の農作業従事及び雇用労働力の状況 (D)			賃借権の設定等を受ける者の主な家畜の飼育状況 (E)		賃借権の設定等を受ける者の主な農機具の所有の状況 (F)						
			世帯員	農業従事者		雇用労働力 (年間延べ労働日数)	種 類	数量	種 類	数量				
農 地	17,234 ㎡	農 地	120,000 (〇〇市 80,000) (△△町 40,000)	水稻	6 人	主たる従事者	5 人	750人日	—	トラクター	2			
採 草 放牧地		採 草 放牧地	複数市町村にまたがる場合は市町村別の合計面積を括弧書きで記載してください。 括弧書き部分はシステムは対応していないため、手書きで記載してください。	その他の従事者	主として農業に従事する者	人	パート等人員の従事 日数(農業従事者欄の人数は含まない)					—	田植え機	1
その他					従として農業に従事する者	1 人								
農作業に従事する者の配置の状況 (G)		市町村	氏名		住所地、拠点となる場所等									
		〇〇市	〇〇 〇〇太郎		〇〇市									
		△△町	△△ △△子		〇〇市									
賃借権の設定等を受ける者の権利の取得後におけるその行う耕作又は養畜の事業が、権利を設定し、又は移転しようとする農用地等の周辺の農用地の農業上の利用に及ぼすことが見込まれる影響 (H)			(例) 周辺で行われている農業と同様な作付けを行うため、周辺の農用地の農業上の利用に影響を及ぼすことはないと考えます。また、農業の使用方法は、使用方法を遵守するとともに地域の防除基準に従います。 地域での農地利用調整には参加して決定には従います。(経営体の営農に合わせて内容は変更して下さい。)											

(記載注意)

- 賃借権の設定等を受ける者の農業経営
- (A) 欄は、同一公告に係る計画によ
- (B) 欄は、賃借権農設定等を受ける者の経営面積(自己所有地、利用権の設定等の現に耕作している面積)が複数市町村にまたがる場合には、市町村別の合計面積を括弧書きで記載する。
- (C) 欄は、主たる経営作目を「水稻」, 「野菜」, 「果樹」, 「施設園芸」, 「酪農」, 「肉用牛」, 「養豚」, 「養鶏」等と記載する。
- (D) 欄の「世帯員」欄には、世帯員のうち農業に従事している者の人数を記入する。「農業従事者」欄には、前述の世帯員の内訳を主たる従事者、その他の従事者に分けて記入する。なお、「主たる従事者」とは、自家農業労働日数が年間おおむね150日以上の者を、「その他の従事者」とは、自家農業労働日数が年間おおむね60～149日の者をいう。
- (D) 欄の「雇用労働力」欄には雇用している労働者の人数に労働日数を掛けた値(人日)を記入する。
例) 年間労働日数が150日の者を2人雇用している場合：150日×2人＝300人日
- (E) 欄は、賃借権の設定等を受ける者が飼育している主な家畜について、その種類と頭数を記入する。
- (F) 欄は、賃借権の設定等を受ける者が所有している主な農機具について、その種類と数量を記入する。
- (G) 欄の「農作業に従事する者の配置の状況」については、(A) 欄及び (B) 欄に係る土地が複数市町村にまたがる場合（市町村別の状況を記載）のみ記載する（隣接市町村などで配置が同じ場合は、該当する市町村名を列記する）。なお、「住所地、拠点となる場所等」には、市町村名を記載する。